



VOICETONE™ Create·XT

PRODUCT MANUAL

JAPANESE VERSION
ユーザーマニュアル

警告

火災や感電のリスクを軽減するため、本機を雨や湿度にさらさないでください。

注意

本機器は FCC 基準 Part 15 に準ずる Class B デジタル機器の制限事項に適合するための試験に合格しています。

動作には次の二つの条件が定められています： (1) 本機が有害な電波障害を起こさないこと、(2) 本機が、誤動作を起こす電波障害を含め、あらゆる受信障害電波を受け付けること。



正三角形に括られた矢印付きの落雷マークは「電気に注意！」を意味します。動作電圧や、感電リスクの可能性についての情報が含まれることを示します。



三角形に括られた「！」サインは、「注意！」を意味します。このサインの脇の情報をお読みください。

| | | | |
|---------------------------|-----------|------------------------------|-----------|
| イントロダクション | 4 | スタイルの「トゥイーク」 | 21 |
| クイックスタート | 6 | エディット内容の保存 | 22 |
| フロントパネル | 12 | カテゴリー／ジャンル別にスタイルをブラウズする | 22 |
| バックパネル | 13 | タップ・テンポ | 23 |
| セットアップ例 | 14 | 高度な設定 | 24 |
| モノラルとステレオ接続 | 14 | オルタネイト・トーン・セッティング | 24 |
| ペダル入力 | 14 | ファクトリー・リセット：工場出荷時の設定への復帰 | 24 |
| フットスイッチの「タップ」と「長押し」 | 15 | モノラルとドライ・アウトを使った外部ミキシング | 25 |
| Create XT の機能と操作方法 | 16 | プリセット数の変更 | 25 |
| プリセットのロード（呼び出し） | 16 | VoiceSupport アプリケーション | 26 |
| 「プリセット」と「スタイル」 | 16 | 概要 | 26 |
| 本番中のサウンドの切り替え方 | 16 | 初回起動時 | 26 |
| Tone - トーン機能 | 18 | Download - ダウンロード・タブ | 26 |
| エフェクト・ブロック | 19 | Backup - バックアップ・タブ | 26 |
| HardTune - ハードチューン | 20 | FAQ とトラブルシューティング | 28 |
| プリセット・エフェクトの設定変更 | 20 | 仕様 | 29 |
| | | スタイル・リスト／Tweak ノブ割り当て表 | 30 |

イントロダクション

VoiceTone Create XT へようこそ

VoiceTone Create XT は、ステージ上でスタジオ・クオリティのエフェクトを実現するシンガー向けの製品で、プロフェッショナルなプロデューサーが使用する機材をポータブルなペダルに凝縮しています。VoiceTone Create XT のエフェクトは、ハイエンドのスタジオ・ハードウェア・プロセッサやプラグインと同等のアルゴリズムを搭載しています。ノイズフロア／ハーモニック・ディストーション／周波数特性などの音質面では、Create XT は既存の類似するあらゆる機材を凌ぐ性能を発揮し、多くのハイエンド機をも凌駕します。

Create XT では、音楽ジャンルを問わずに良いサウンドを得られる、プロフェッショナルが作成した幅広いサウンドが用意されています。既存のサウンドで物足りない場合は、設定を調節するためのシンプルでパワフルなコントロールも用意されており、素早く任意のサウンドを得られます。

バンド・メンバーやオーディエンスはもちろん、サウンド・エンジニアでさえも、シンガーが自分のサウンドに責任をもってコントロールできることに驚かれるかもしれません。

TC-Helicon では、その時はついに来た、と考えています。

主な特徴

- それぞれに A と B の 2 種類のセッティングを含む 10 のプリセットを搭載
- 100 のファクトリー・エフェクト・スタイル
- 豊富なバラエティの最高品質リバーブ
- 複雑なサウンドを構築する複数のエフェクト・ブロックを搭載
- 機械的なピッチ補正ヴォイスをステージ上で再現可能する HardTune エフェクト
- プリセットの設定を素早く行なえる優れた操作性
- パフォーマンス向けの操作機能
- マイクとミキサーの簡単配線
- クリーンな高品位マイク・プリアンプ、ファンタム・パワー対応

TC-Helicon について

TC-Helicon では、「声」は世界で最も美しい楽器であると考えています。世界中にあふれる他の美しい楽器を蔑む意図はありませんが、考古学的にも「声」はあらゆるメロディの源と言えます。

カナダのビクトリア州にいるエンジニア・研究者・製品スペシャリストの集団が、シンガーや歌唱に情熱を持った人々との会話や連絡／歌唱などを通じて、全ての時間を「声」に捧げています。

様々な活動から得られた経験と知識は、現代のヴォーカリストに向けた製品の開発に役立てられています。TC-Helicon の製品は、ヴォーカリストのクリエイティビティをかき立て、実力を発揮することを妨げる技術的なバリアを取り除くことを目標としています。だからこそ、ヴォーカル用のマルチエフェクト・ペダルからニアフィールドのパーソナル・ヴォーカル・モニターまで、多様な製品が用意されているのです。

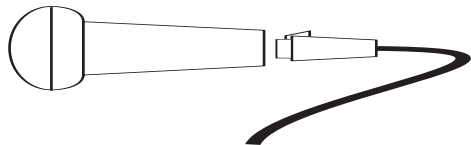
Enjoy!

The TC-Helicon Team
a TC Group Company

クイックスタート

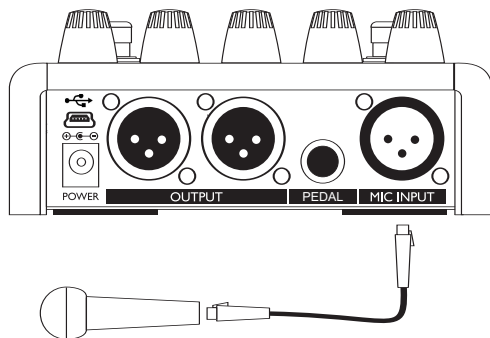
ステップ 1:

マイク・ケーブルをマイクに接続します。



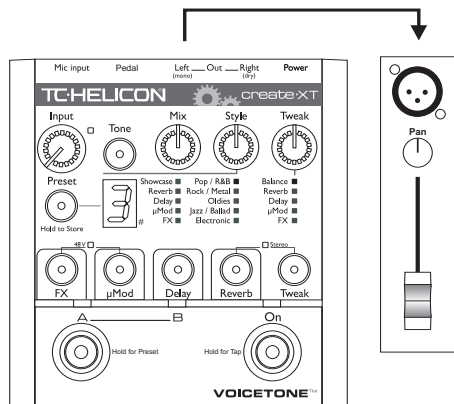
ステップ 2:

マイク・ケーブルを Create XT の Mic Input 端子に接続します。



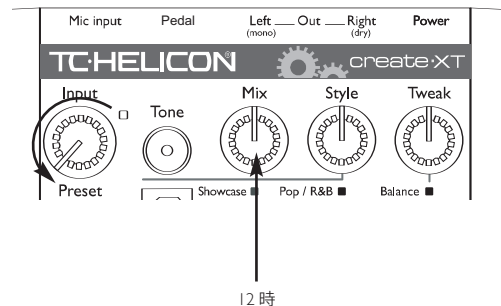
ステップ 3:

接続とセットアップ中は、ミキサー・チャンネルのフェーダーをオフにします。Create XT の Left (mono) Out 端子からサウンド・システムのマイク入力に XLR ケーブルを接続します。



ステップ 4:

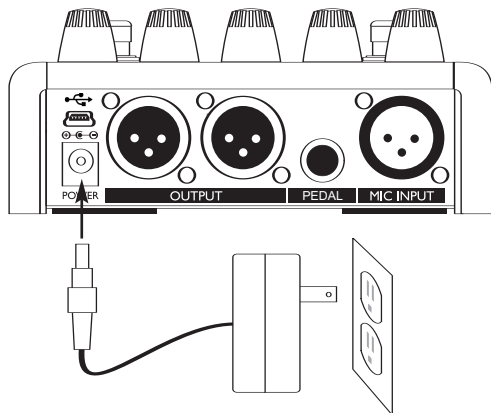
Input ノブを左に回しきり、Mix を 12 時の向きに設定します。この段階では、Style と Tweak ノブは重要ではありません。



クイックスタート

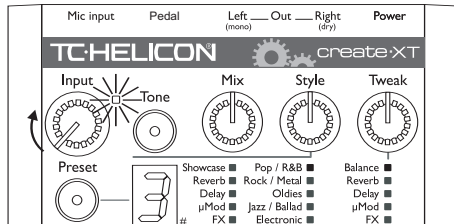
ステップ 5:

Create XT の電源アダプターを Create XT の Power 端子に接続し、コンセントに接続します。



ステップ 6:

マイクに向かって歌いながら、Input ノブを右側に回して行き、レベルを調節します。通常はグリーン、声の大きい場面では稀にオレンジに点灯するように設定します。赤く点灯させないでください。



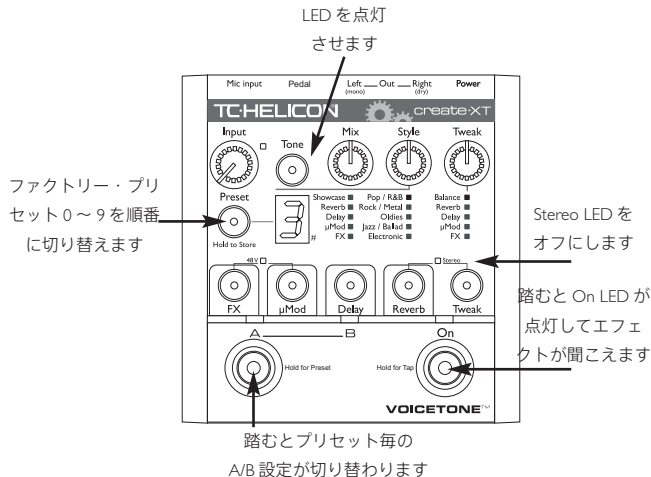
ステップ 7:

ヴォーカルが良好なレベルで聴こえるようになるまで、サウンド・システムのマイク・インプット・チャンネルとマスター・ボリュームを徐々に上げていきます。

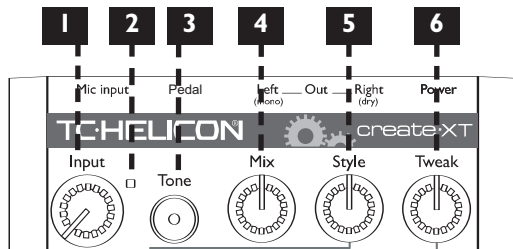


ステップ 8:

始点となる設定と簡単な操作方法を図に示します。セッティングが終わったら、CreateXTのファクトリー・プリセットを視聴します。



フロントパネル



1. Input - インプット・ノブ

マイク・プリアンプの入力ゲインを調節します。マイクに向かって普通に歌いながら、次の「2.インプット・ライト」を参考に、適切なレベルに調節してください。

2.インプット・ライト

マイクの入力レベルを示します。通常はグリーン、稀にオレンジに点灯する状態が最適です。赤はクリッピングの状態で、インプット・レベルを下げるべきであることを示します。

3. Tone - トーン・ボタン

ヴォイスをよりスムーズなサウンドに仕立て上げるライブ・エンジ

ニア・エフェクトのオン／オフ・ボタンです。オンの場合、メインのエフェクトをバイパスしてもエフェクトが施されます。

4.Mix - ミックス・ノブ

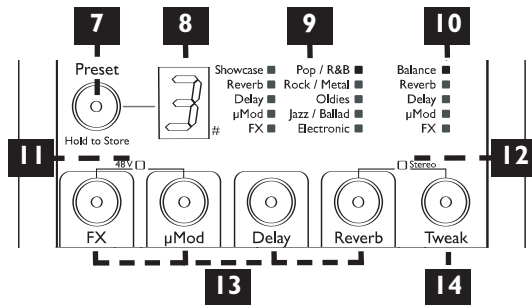
リード・ヴォイスに Tone / HardTune / トランスデューサー・エフェクトが施されたものと、μMod / リバース / ディレイ・エフェクトの全体的なミックス・バランスを調節します。ここでの設定はグローバルで、全プリセットのサウンドに影響します。全てのエフェクト・ブロックがオフの状態でもノブを時計回りに回しきると、無音となります。

5.Style - スタイル・セレクター

エフェクトの種類を選びます。このセレクターで、下に示される各バンク (Showcase 等) の様々なファクトリー・エフェクト・スタイルにアクセスします。スタイル番号は、バンク LED とセレクターを回した際に Preset ディスプレイに一時的に表示される数値の組み合わせで表示されます。

6.Tweak - トゥイーク・ノブ

トゥイークとは「いじる」という意味で、Tweak ボタンで選択したパラメーターの値を調節します。値を変更すると Preset ボタンの LED が点灯し、プリセットがエディットされたことを示します。



7.Preset - プリセット・ボタン

10のプリセットを順番に切り替えます。ボタンを長押しすると、現在の設定がプリセットに保存します。

8.プリセット番号ディスプレイ

通常は現在のプリセット番号を表示します。Tweak ボタンを押している間はスタイルのバリエーション番号を表示します。HardTune のキー設定時には HardTune のキーとスケールが表示されます。

9.スタイル・バンク・ディスプレイ

現行プリセットのファクトリー・スタイル・バンクを示します。

10.トゥイーク・パラメーター・リスト

Tweak ノブで調節できるパラメーターを示します。

11.48V - ファンタム・パワー・ライト

ファンタム・パワーの状態を表示します。オン／オフの状態を切り替えるには FX と μMod ボタンを同時に押します。

12.Stereo - ステレオ・インジケーター

ステレオ・モードの状態（オン／オフ）を表示します。設定を切り替えるには Reverb と Tweak ボタンを同時に押します。

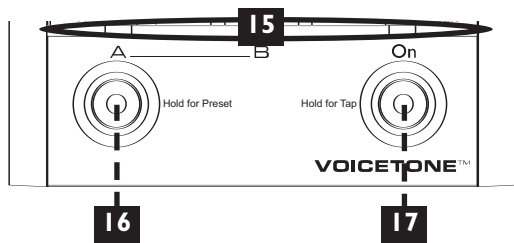
13.エフェクト・オン／オフ・ボタン

プリセットの各エフェクト・ブロックをオン／オフします。

14.Tweak ボタン

Tweak ノブで調節するパラメーターを選択します。

フロントパネル



15. LED インジケーター・バー

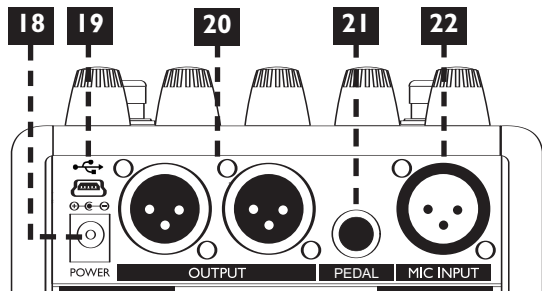
AとBいずれかのライトが点灯している状態は、いずれかのエフェクトが選択されていることを示します。両方のライトが点灯している場合は、プリセット・セレクト・モードにいることを示します。On フットスイッチの上のライトは、Create XT のメイン・エフェクトのオン/オフの状態を示します。

16. A/B - プリセット A / B セレクト・フットスイッチ

このフットスイッチで、最大 20 のエフェクトを切り替えられます。A と B いずれかのライトが点灯している状態は、スイッチを踏む度に A と B の設定が交互に切り替わります。より多くのプリセットにアクセスするには、スイッチを長押しすることでプリセット・セレクト・モードに入ります。A と B 両方の LED が点灯します。その段階で A/B プリセットどちらが選択されていたかによって、その後 A/B スイッチを押す度に、A または B のプリセットが順番に切り替わりま

17. On - オン・フットスイッチ

フットスイッチをタップすると、現行プリセットのオン/オフの状態を切り替えます。フットスイッチを長押しするとタップ・テンポ・モードに入り、曲のビートに合わせてフットスイッチを踏むことでディレイ・ブロックのエフェクトのテンポを調節できます。タップ・テンポ・モードを終了するには、再度スイッチを長押しします。



18. Power - 電源入力

付属の DC パワー・アダプターをここに接続します。本体にオン／オフ・スイッチはありませんので、電源を接続すると自動的にオンになります。

19. USB コネクター

コンピューターと Create XT を USB 接続することにより、バックアップやアップデートが行なえます。詳細は、後述「VoiceSupport アプリケーション」セクションをご参照ください。

20. Output - アウトプット

デフォルトの設定であるステレオ時には左右のアウトプット信号を出力します（モノラル出力は左側）。本体をモノラルに設定すると、右アウトプットはプリアンプを経たドライ信号の出力となり、外部ミキシングに対応します。

21. Pedal - ペダル・インプット

TC-Helicon Switch 3 フットスイッチ（別売）を接続するための端子です。FX / μ Mod / デレイを個別にオン／オフできるようになります。

22. Mic Input - マイク・インプット

マイクを接続するためのバランス・ローインピーダンス XLR 入力端子です。

セットアップについて

モノラルとステレオ接続

ほとんどのエフェクトでは、Create XTをステレオ接続することでよりワイドな空間の効果が得られますので、PA/サウンド・システムがステレオであったりレコーディングで使用する場合にはステレオのセットアップで最良の効果が得られます。これは、特にリバーブや

ピンポン・ディレイを使ったプリセットに当てはまります。

Create XTをステレオ配線するには、Output Left (mono) と Right (Dry) 端子を2つのミキサー・チャンネルに送ります。ミキサーの各チャンネルは左右にハード・パンしてください (パンニングを左右に振り切った状態)。PA側で各チャンネルのレベルを揃えるのを忘れないでください。

PAがステレオでない場合は、Create XTをモノラル接続することで、配線とミキサーのチャンネル数を節約できます。

ペダル入力

Create XTのPedal Inを活用することで、Create XTの兄貴分となるVoiceLive 2の操作感に近づけることができます。VoiceLive 2の利点の一つに、一つのプリセット内でエフェクト・ブロックを個別にオン/オフできることがあげられます。Create XTのプリセットは概ね複数のエフェクト・ブロックを使った混合エフェクトとなっており、Switch 3を接続することで、プリセットを構成するエフェクトを状況に応じて個別にオン/オフできるようになります。また、プリセットの設定としてオフになっているものをオンにすることで、プリセットを切り替えることなくサウンドの幅を広げることができます。



PAシステムが本当に

ステレオであるかを

確認する方法

サウンド・システムに2台のスピーカーが接続されているからといって、必ずしもステレオであるとは限りません。本当にステレオであるかを確認するには、マイクを直接ミキサーのチャンネルに立ち上げ、パンを左右に振ります。音がスピーカー間を移動すれば、PAはステレオです。

Create XT は4つのエフェクト・ブロックで構成され、Switch 3ではその内 FX / μ Mod / ディレイ・ブロックの3つをオン/オフできます。通常、リバーブは全体を通してオンのままで使用するため、リバーブは外部フットスイッチからオン/オフできません。MC時などでリバーブをオフにしたい場合は、本体の On ボタンでエフェクト全体をバイパスします。

フットスイッチの「タップ」と「長押し」

Create XT では、フットスイッチを踏んで放す「タップ」と呼ばれる踏み方と、踏んでしばらくフットスイッチをおさえたままにする「長押し」の2種類の踏み方に、異なる機能が割り当てられていることがあります。これは、ステージに立っている状態で、より多くの操作を可能とするための配慮です。A/B と On フットスイッチで長押しの操作を行なう際には、約1秒ボタンを踏んだままにします。本番中に間違えてモードを切り替えてしまわない様、タップする際には間違えてフットスイッチを踏んだままにしない様にお気をつけ下さい。

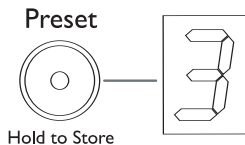
電源のオフ時に記憶される設定

Create XT の電源を投入すると、ノブの位置を除く全ての設定が前回電源を落とした時点の設定に復帰します。現行プリセット、48V、モノラル/ステレオ、A/B、On ボタンの状態等は、電源を落とした時点のままとなります。

Create XT の機能と操作方法

プリセットのロード（呼び出し）

Preset ボタンを押すと次のプリセットに切り替わり、プリセット番号がディスプレイに表示されます。そこでA/B フットスイッチをタップすると、AとB二つの設定が交互に切り替わります。該当する「A」「B」表記の上のLEDが点灯します。



各プリセットのAとBセッティングを確認したら、次にヴォーカル・エフェクト・プリセットのファクトリー設定全体を確認してみましょう。

「プリセット」と「スタイル」

「プリセット」は、スタイルの選択と、「Tweak」によるパラメーターの設定値の組み合わせです。各プリセットは、AとB二種類の設定で構成され、本番中に素早く切り替えることができます。AとBパートの設定の保存は、Preset ボタンで個別に行なえます。

「スタイル」は、デフォルトで用意されている、一つの混合エフェクトを構成するセッティングです。プリセットによって異なるスタイルが選択されていますが、Style ノブでスタイルの種類を変えることができます。また、Tweak を長押しすると、スタイル番号が点滅し、

各スタイル番号のバリエーションにアクセスできます。Tweak ボタンを押す度にスタイル番号のバリエーションが順番に切り替わります。設定が終わったら Tweak を長押しすると、通常の動作に戻ります。

本番中のサウンドの切り替え方

Create XT では、シンガーが立った姿勢からエフェクトを選択するための方法がいくつか用意されています。どの操作方法を選ぶかは、Create XT をどういった使い方をしたいかにも大きく影響されます。

1. 全体を通して一つのサウンド固定で使う場合

ファクトリー・デフォルト・プリセット1番、A/B フットスイッチの「A」の設定で Tone ボタンをオンにします。パフォーマンス全体を通して使える、汎用性の高い高品位なエフェクトが得られます。On ボタンでエフェクト全体をオン/オフできますので、MC 時にはエフェクトをオフにしてヴォーカル・サウンドとの区別をつけることができます。

2. メインのサウンドと一時的なサウンドを切り替えて使う場合

上記の方法でほとんどの状況はカバーできるものの、いくつかの場面で一時的にサウンドを変えて音に対比を与えたい場合は、通常はプリセットの「A」、一時的なエフェクトの時にだけ「B」の設定を使います。

3. ファクトリー・プリセットを順番に切り替える

この操作方は、多くのスタイルで多彩なヴォーカル・エフェクトを使い分けることができます。まずは、A/B フットスイッチで A の LED を点灯させます。A/B フットスイッチを長押しして、プリセット・モードに入ります（A と B の LED が両方点灯します）。次に A/B スwitch を踏む度に次のプリセットに切り替わります。上限のプリセット番号を通過すると、最初のプリセットに戻ります。一度プリセット・モードに切り替えると、Create XT は、次の電源投入時にもプリセット・モードのまま立ち上がりません。各プリセット番号のサウンドに慣れ親しんだら、特定の楽曲や楽曲内の特定のセクションにどのプリセットが合っているかわかるでしょう。

4. ファクトリー・プリセットと、それぞれの A/B 設定を使い分ける

この方式は、立ったままの操作で最も多くのヴォーカル・エフェクトを切り替えることを可能とします。前述のプリセット・モードでプリセット番号を替えながら、各プリセット内で A/B 設定を切り替えます。通常、曲間にプリセット・モードでプリセット番号を選択してプリセット・モードを終了し、楽曲中セクション毎のサウンドの切り替えを A/B で行ないます。

5. プリセットの完全なカスタム化

使いたいサウンドの種類とプリセット数を完全に把握しているユーザーのために、Create XT は自由度の高いカスタム設定を作成できます。まず、後述の Tweak パラメーターとエフェクト・オン/オフ・ボタンで、目的に応じた自分ならではのサウンドを作成することができます。また、プリセット・モード内で使用しないプリセットを通過する手間を省くために、プリセットの数自体も指定できます（後述「高度な設定」セクション参照）。

Create XT の機能と操作方法

Tone - トーン機能

トーン機能は、ボタン一つというシンプルな操作性とはうらはらに、ヴォーカル・サウンドにプロフェッショナルな輝きを与える複雑な信号処理を行ないます。ほとんどの場合であれば、この機能をオンにするだけで良好な効果が得られます。

トーン機能は、ヴォーカル・サウンドをよりスムーズでブライトに仕立て上げるために一般的なレコーディングで使用される、3つのエフェクトの組み合わせです。

Adaptive Shape EQ - アダプティブ・シェイプEQ

Compression - コンプレッション

De-essing - ディエッサー

アダプティブ・シェイプEQは、入力された声の特徴に合わせて、マイクに近接した際に生じがちな余分な低域を下げながらもヴォイスがミックスに埋もれてしまうことを予防するための高域のブーストを行ないます。

コンプレッションは、歌唱の音量的なピークをゆるやかに抑え、ヴォイスがアンプを通ったサウンドをよりスムーズに仕立て上げます。

ディエッサーは、歯擦音またはシビランスと呼ばれる耳障りな「サ」行の音を抑え、ヴォーカル・サウンドをよりスムーズに仕立て上げます。

Create XT のトーン機能は単体で完結する様に設計されていますので、トーン機能を使用する場合は、接続先の機器側の各種トーン調節機能はオフに設定することで最も良い効果が得られます。また、PAのメイン・アウトにグラフィックEQなどを施す場合は、フィードバック防止などを目的としたカットのみであるべきです。

トーン機能はブライトネスを足す処理を行なうため、環境によってはフィードバックの原因ともなり得ますので、モニターはマイクのデッド・エリアに向けて、PAスピーカーがシンガーの前に設置されていることをご確認ください。

エフェクト・ブロック

Create XT の各スタイルは、4つのブロックの組み合わせで構成されます。各ブロックは、それぞれ別個のエフェクトと解釈できます。フロントパネル上は、次の通りに並べられています：

FX - エフェクト

FX ブロックは、Transducer（トランスデューサー）と HardTune（ハードチューン）ブロックを内包しています。トランスデューサーは、メガホンやテレフォン・ヴォイスなどのサウンドを得るためのフィルターとディストーション効果の組み合わせです。ハードチューン・エフェクトは、Tpain、Kanye West、Cher といったアーティストのサウンドに代表される、極端で機械的なピッチ補正効果に類似した効果です。

μMod - マイクロモッド

μMod は「マイクロモッド」の略で、コーラスやフランジャーなどのモジュレーション・サウンドを生成します。ディチューンで音に厚みを与えたり、特殊効果を得ることも可能です。

Delay - ディレイ

ディレイ・ブロックは、スラップ／ピンポン／タップ・テンポなどのエコー・エフェクトを生成します。スラップ・エコーは最も短いタイプで、1950年代のディレイ黎明期の機器の効果を再現します。ピンポンはより長く、ステレオ音場を左右に飛び跳ねます。タップ・テンポ・エコーは、エコー成分が楽曲のビートに合わせて反復します。タップ・テンポについての詳細は、後述の「タップ・テンポ」セクションをご参照ください。

Reverb - リバーブ

リバーブは、特定の空間が持つ残響をシミュレートします。Create XT では、ルームやホールなどの空間のスタイルと、プレートやスプリングといった音響空間を模写するために使われてきた残響音生成機器のスタイルを両方搭載しています。

ファクトリー・スタイルは、ブロックごとに事前に設定がなされています。例えば、一つのファクトリー・スタイルではリバーブは小さい部屋のサウンドの設定になっていて、別のものではダークなサウンドのホール残響の設定となっているかもしれません。

Create XT の機能と操作方法

HardTune - ハードチューン

このエフェクトは、事前にキーを設定（例：Aマイナー）することで性能を発揮します。ハードチューンを使う楽曲に合わせてキーを入力する方法は至ってシンプルです。キーがわからない場合は、まずは曲の最初または最後のコードに合わせてみると良いでしょう。

ハードチューンのキー入力（または確認）方法は次の通りです：

1. HardTune エフェクトがオンになっているプリセットまたはスタイルを選びます。
2. A/B と On フットスイッチを長押しします。3つのLEDが全て点滅し、メインのLEDディスプレイ上にキーが表示されます。
3. 2秒以内にA/B フットスイッチをタップして、キーを選びます。On フットスイッチで、メジャー／マイナーを切り替えます。約2秒間フットスイッチ操作を行なわないと、ディスプレイは通常に戻り、通常の機能に戻ります。

ディスプレイ上のキーの表示方法は次の通りです：



プリセット・エフェクトの設定変更

Create XT では、プリセットの設定を変更して、その編集内容を元のプリセットに保存し直すことができます。一度保存したプリセットは、既述の方法で後から呼び出すことができます。



設定の変更方法にはいくつかの方法があります：

1. Style ノブを回して、異なるスタイルを選択できます。スタイルの選択は、バンク・ディスプレイと、Style ノブを回している間ディスプレイに表示される番号で確認できます。
2. FX / μ Mod / Delay / Reverb ボタンを押すことで、現在の設定からエフェクト・ブロックを個別にオン／オフできます。
3. Tweak ボタンを押して、変更したいエフェクトの要素を Tweak リストから選び、Tweak ノブでその設定を変更できます。
4. Switch 3 フットスイッチでエフェクト・ブロックを個別にオン／オフできます。

通常は、目的とするサウンドに近いプリセットやスタイルを最初に選び、そこから Tweak ノブでサウンドを調節していく手順で一番素早く設定が行なえます。

スタイル設定の「トゥイーク」

各スタイルは、エフェクトを好みに調節するための設定が用意されています。Create XT では、スタイルをエディットすることを Tweak = トゥイークといいます。

スタイルをエディットするには、まずは Tweak ボタンでパラメーター・リストからパラメーターを選択して、次に Tweak ノブで選択したパラメーターの値を調節します。

エフェクト・ブロック自体がオフになっているトゥイーク・パラメーターは、パラメーター選択時の選択肢から除外されます。

スタイルによって、Tweak ノブは、一つまたは複数の内部設定を変更します。Tweak が変更する設定は、本マニュアル末尾のスタイル・リストと Tweak の割当表をご参照ください。

1. Balance - バランス

エフェクト・ブロックのレベルを個別に調節できます。ブロック毎にレベルを設定するには、調節したいブロックのみをオンにして Balance を設定します。複数のブロックがオンになっている場合にどのブロックのレベルが調節されるかは、工場出荷時に事前に設定がなされています。

2. Reverb - リバーブ

リバーブのディケイ（長さ、またはサイズ）を設定します。設定値は、ショートからロングの順に割り当てられています。

3. Delay - デイレイ

デイレイ・タイム、フィードバック、タップ・テンポ・ディビジョン等、デイレイの一般的なパラメーターを調節します。

デイレイのスタイルが 350 ms 以下のデイレイの場合、Delay Tweak はデイレイ・タイムを 0 ~ 350 ms の範囲で調節します。350 ms 以上のデイレイの場合、Delay Tweak はフィードバックを調節します。ショート・デイレイのプリセットからデイレイタイムをタップ・テンポで指定すると、Tweak ノブはフィードバックに割り当てられます。

Create XT の機能と操作方法

4. μ Mod

モジュレーション・スピード、ディチューン量、インテンシティ等を調節します。

μ Modのスタイルがモジュレーションを使用している場合、 μ Mod Tweakはモジュレーション・スピードを調節します。モジュレーションがない場合、 μ Mod Tweakはディチューンの量を調節します。センター・ポジションでディチューンなし、左右に振り切った状態で-25L/+25R(左) / +25R/-25L(右)となります。

5. FX

Transducerが未使用でHardTuneがオンの場合、FX Tweakはジェンダー(性別)を調節します。ディストーションが未使用でTransducerを使用している場合、FX Tweakはハイパスを調節します。ディストーションを使用したスタイルでは、FX Tweakはディストーション量を調節します。

エディット内容の保存

設定の調節が終わって設定を保存するには、Preset ボタンを長押しします。この操作は、現在のプリセット番号のAまたはBの設定を保存します。Create XTを工場出荷時の設定に戻すには、後述「高度な設定」セクションをご参照ください。

カテゴリー／ジャンル別にスタイルをブラウズする

目的のサウンドを素早く探せるように、Create XTのスタイル・ライブラリはエフェクトのカテゴリーと音楽ジャンルの種類別に整理されています。各バンクには、それぞれのカテゴリーまたはジャンルに該当する多くのスタイルが用意されています。

Showcase (ショーケース) カテゴリーは、Create XTのベストヒット集ともいえるもので、特徴的なサウンドがまとめられています。残りのカテゴリーは、それぞれ異なるエフェクト・ブロックをメインに据えています。多くの場合、主となるブロック以外のブロックもオンになっています。マニュアルの末尾にバンクとスタイル名のリストが掲載されています。

用意されているカテゴリは次の通りです：

Showcase - ショーケース

Reverb - リバーブ

Delay - デイレイ

μMod

FX - エフェクト

用意されているジャンルは次の通りです：

Pop / R&B - ポップ / R&B

Rock / Metal - ロック / メタル

Oldies - オールディーズ

Jazz / Ballad - ジャズ / バラード

Electronic - エレクトロニック

タップ・テンポ

長いデイレイは、多くの場合曲のテンポと合わせた方が効果的です。タップ・テンポ機能は、この目的に適しています。多くのファクトリー・プリセットとスタイルはタップ・テンポ機能を使用しています。いくつかのものではエコー成分がダウンビートで生成され、他のものでは8分や16分音符の符割となります。

タップ・テンポ・エコー・エフェクトの使い方：

1. タップ・テンポ機能を使用しているプリセットまたはスタイルを選びます。
2. エフェクトがオンであることを OnLED の状態で確認します。
3. On フットスイッチを長押しします。
4. 楽曲のビートに合わせて On フットスイッチをタップします。通常は数ビートで十分です。
5. On フットスイッチを再度長押しして、タップ・テンポ・モードを終了します。

この時点で、このテンポをプリセットに保存できます。

タップ・テンポ・モードに入るために On フットスイッチを長押しした際に LED が 2 回高速に点滅してその後点灯に変わらない状態は、現在のプリセットまたはスタイルでタップ・テンポの入力が行なえないことを示します。

高度な設定

オルタネイト・トーン・セッティング

Tone 機能はデフォルトの設定で幅広いシンガーに対応するために通常設定をエディットする必要はありませんが、標準のもの以外に「オルタネイト」と言われるバリエーションが用意されています。

オルタネイト・トーン・セッティングにアクセスするには、プリセット・ディスプレイの番号表示が点滅するまで Tone ボタンを長押しします。次に Tone ボタンをタップすると、バリエーションが切り替わり、プリセット・ディスプレイにその番号が表示されます。

内容は次の通りです。

- d デフォルトの汎用的な設定
 - 1 ブライツネスを抑える、ブライツなサウンドの PA に適したセッティング
 - 2 比較的狭い周波数帯域でベースをブーストする、ヴォイスに暖かみを加えるセッティング
 - 3 デフォルトの設定にコンプレッションを加えたセッティング
(注意：コンプレッションにより、フィードバックが生じやすくなります)

ファクトリー・リセット：工場出荷時の設定への復帰

Create XT の設定とプリセット内容を工場出荷時に戻す手順は次の通りです。

1. Create XT の電源アダプターを外します。
2. FX と Tweak ボタンを押しながら電源アダプターを再度接続します。
3. Create XT の全てのパフォーマンス情報は消去され、工場出荷時の状態に戻ります。数秒後にこの作業が終了すると、Create XT は通常の動作に戻ります。

モノラルとドライ・アウトを使った外部ミキシング

ドライ・ヴォイス（トーンのみ）とエフェクトが施されたサウンドのバランス調節をサウンド・エンジニアにゆだねたいことがあるかもしれません。この場合は、ドライ・ヴォイスとエフェクトの信号をそれぞれ独立してモノラルで送ることができます。

1. 両チャンネルのアウトプットをミキサーに送ります。
2. Create XT の Mix コントロールを 100% ウェット（右に回しきった状態）に設定します
3. サウンド・エンジニアが手動でモノラルのエフェクト・アウト・チャンネルの音量を楽曲に合わせて調節できるようになります。

通常は Mix をセンター（12 時）に設定することで最も良好なバランスを得られますが、人によってエフェクト・レベルの好みは違うため、この機能を使うことで自由なバランスを得ることができます。

Note 1: Transducer と HardTune エフェクトは完全ウェットを想定したエフェクトであるため、これらのスタイルを使用しながら外部ミキシングを行なう場合は、エンジニア側でドライ・チャンネルをミュートするのを忘れないでください。

Note 2: ドライ・アウトプットの出力についても、Tone エフェクトは反映されます。

プリセット数の変更

Create XT は、工場出荷時には A と B 二つのセッティングで構成される 10 のプリセットが用意されています。Create XT では、一度にアクセスできるプリセットの数自体を制限することができます。

プリセット数を指定するには、Preset ボタンを押しながら電源を投入します。若干のタイムラグの後、使用するプリセット数に該当する数字が表示されます。Preset ボタンをタップするとプリセット数が順番に切り替わります。プリセット数の下限は 3、上限は 10（表示上は「0」）です。プリセット数を 1 つ、または 2 つには設定できません。使用するプリセット数を決めたら、Preset ボタンを長押しして、操作を確定させます。この後、Create XT は新しい設定を反映して通常の動作に戻ります。

VoiceSupport アプリケーション

概要

Create XT の製品パッケージには、VoiceSupport アプリケーションを含む CD-ROM が付属しています。Windows または Mac OS 機にインストールすると、ソフトウェアから次の操作を行なえるようになります：

- 作成したプリセットのバックアップとリストア（復帰）
- ビデオ・チュートリアル、バージョン・アップデート、使用上のヒントなどの最新ニュースの入手
- 製品登録
- 本体のシステム・アップデート

動作環境

- Mac: Mac OS 10.x 以降
- PC: Windows XP 搭載機
- インターネット接続

インストール方法

1. 付属の CD をドライブに挿入します。CD がお手元にはない場合は最新版を www.tc-helicon.com/voicesupport.asp からダウンロードします。
2. セットアップ・プログラムは通常自動的に起動します。自動的に起動しない場合は、CD 内の Setup.exe を開きます。
3. 指示に従ってインストールを進めます。
4. 付属の USB ケーブルで Create XT をコンピュータに接続します。Create XT に電源ケーブルを接続します。
5. デスクトップの VoiceSupport アイコンをクリックして VoiceSupport を立ち上げます。

初回起動時

アプリケーションは起動時に Create XT の検知を試みます。成功すると接続が確立されたことを示すアイコンが表示されます。数回試しても接続がうまくいかない場合は本マニュアルの FAQ セクションをご参照ください。次に、VoiceSupport は TC-Helicon ウェブサイトから Create XT に関連する最新ニュース項目を確認します。項目をクリックすると開きます。HOME ウィンドウをスクロールして、画面の下に非表示のコンテンツがないか確認してください。項目を読むと、「New」アイコンは消えます。本マニュアルの執筆時現在、ニュース項目は常に VoiceSupport 内に表示されます。

VoiceSupport アプリケーション

ニュース項目をご一読の後は、トップ・メニューの Register ボタンを押してフォームにご記入いただくことで製品のユーザ登録を行なえます。

Download - ダウンロード・タブ

将来的に、Create XT のファームウェアがアップデートされることがあるかもしれません。アップデートは通常ユーザー様からのご意見等を取り入れた新機能や既存の機能の改良、バグ・フィクスなどを含みます。

Download タブは、通常製品のアップデートが供給されている際のみ使用します。アップデートが用意されている場合は、「Load a SysEx file...」(SysEx ファイルをロード) という項目の上に、アップデートの説明文が表示されます。複数のアップデート項目がある場合は、一番上の項目が最新となります。製品をアップデートする前に、内容を必ずご確認ください。

Backup - バックアップ・タブ

お持ちの Create XT のプリセットをエディットしてその設定のバックアップをコンピュータに保存しておきたい場合は、このタブを使用します。一台の設定を別の個体に移したい場合にも使用します。

このタブは、Backup (バックアップ) と Restore (リストア) の2つのウィンドウで構成されます。Backup はプリセットとセットアップ (48V オン/オフ、ステレオ/モノ、等) パラメーターの設定をコンピューターのユーザーが指定したフォルダに保存します。Restore はこのデータをコンピューターから Create XT に転送します。プリセット番号の割当表は次の通りです：

| | | | | | | | |
|----|---|----|----|----|----|----|----|
| 1A | 1 | 6A | 6 | 1B | 11 | 6B | 16 |
| 2A | 2 | 7A | 7 | 2B | 12 | 7B | 17 |
| 3A | 3 | 8A | 8 | 3B | 13 | 8B | 18 |
| 4A | 4 | 9A | 9 | 4B | 14 | 9B | 19 |
| 5A | 5 | 0A | 10 | 5B | 15 | 0B | 10 |

定期的にご確認ください

VoiceSupport が読み込むニュース項目は、製品の活用法のヒントとなったり、製品知識を深めていただくのに有益な情報が含まれます。Create XT を接続していない場合でも、度々アプリケーションを起動して、最新情報を是非ご確認ください。

FAQ & トラブルシューティング

FAQ & トラブルシューティング

1. Create XT から音が出ません。

- PA の電源がオンになっていて、ミキサーの入力チャンネルが上がっていることを確認してください。
- マイクを直接サウンド・システムに配線して、ケーブルを確認してください。
- ファンタム電源を必要とするコンデンサー・マイクを使用している場合は、48V ライトが点灯していることを確認してください。

2. エフェクトのかかっていない、元の声しか聴こえません。

- On フットスイッチが点灯していることを確認してください。
- Mix ノブをセンター (12 時) のポジションにしてみてください。
- モノラル接続の場合、Create XL の Left (mono) アウトを PA に接続していることをご確認ください。
- 最低でも 1 つのエフェクト・オン/オフ LED がオンになっていることを確認してください。

3. サウンドが歪みます。

- プリセット自体が意図的に歪みを生成しているトランスデューサー・パッチでないことを確認してください。

- インプット・ライトが頻繁に赤く点灯する場合は、インプット・レベルを下げてください。

4. フィードバックが生じます。

- モニターをシンガーとマイクと同一線上に配置し、シンガーに向けてください。
- PA のボリュームを下げてみてください。
- Tone セットアップをハイ・ブーストの少ないオルタネイト 1 番に設定してみてください。または、Tone をオフにしてみてください。

5. エフェクトのオン/オフができません。

- On スイッチを長押しして、タップ・テンポ・モードを終了してください。

6. 動作しないブロックがあります。

- プリセットによっては、複数のブロックがオンになっていないと内部配線が完結しないものがあります。他のブロックもオンにしてみてください。

アナログ入力

- バランス XLR マイク・コネクタ入力インピーダンス 1k Ω
- マイク・インプット感度 @ 0dBFS -44dBu ~ +2dBu
- マイク・インプット感度 @ 12dB ヘッドルーム -56dBu ~ -10dBu
- EIN @ 最大マイクアンプ・ゲイン、 $R_g = 150 \Omega$ -128dBu

アナログ出力

- コネクター バランス XLR
- 出力インピーダンス 40 Ω
- 出力レベル @ 0dBFS +2dBu

アナログ・オーディオ性能 (入力→出力)

- ダイナミックレンジ、マイク @ 最小ゲイン、20 Hz ~ 20kHz *A-weighted >108dB
- ダイナミックレンジ、マイク感度 @ -18dBu、20 Hz ~ 20kHz >104dB
- THD+ ノイズ、マイク @ 最小ゲイン <-90dB
- 周波数特性、最大ゲイン -1.5dB @ 40Hz (200Hz ~ 20kHz) +0 / -0.3dB

コンバージョン特性

- サンプルレート 48 kHz
- コンバータ AKM AK4620B
- AD / DA 変換 24ビット、128x オーバーサンプリング・ビットストリーム

EMC & 安全

- Complies with EN 55103-1 and EN55103-2 FCC part 15, Class B, CISPR 22, Class B
- Certified to IEC 65, EN 60065, UL6500 and CSA E60065 CSA FILE #LR108093

環境

- 作動環境温度 0 °C ~ 50 °C
- 保管環境温度 -30 °C ~ 70 °C
- 湿度 最大 90% (結露なきこと)

その他

- 寸法 130 mm × 132mm × 41mm
- 重量 0.72 kg
- 製品保証 1年

仕様は予告なく変更となることがあります

スタイル・リスト

| バンク | プリセット | バリエーション | スタイル名 | Balance | Reverb | Delay | μMod | FX | | |
|----------------------|------------------|-----------------|---------------|-----------------|-------------------|---------|---------|---------|-----------|-----------|
| Showcase (ショーケース) | 1A | 0 | Broadway Hall | リバーブ | ディケイ | フィードバック | ディチューン | ハイパス | | |
| | | 1 | HardTune Echo | ディレイ | ディケイ | フィードバック | スピード | ジェンダー | | |
| | | 2 | Us & Them | μMod | ディケイ | フィードバック | スピード | ジェンダー | | |
| | Reverb (リバーブ) | 1B | 3 | Megaphone Room | リバーブ | ディケイ | フィードバック | スピード | ディストーション量 | |
| | | | 4 | Slappin' Spring | ディレイ | ディケイ | ディレイタイム | ディチューン | ハイパス | |
| | | | 5 | Thicken Verb | μMod | ディケイ | ディレイタイム | スピード | ハイパス | |
| | | Delay (ディレイ) | 2A | 6 | Filtered Echo | ディレイ | ディケイ | フィードバック | スピード | ハイパス |
| | | | | 7 | Fast Rotor | ディレイ | ディケイ | フィードバック | スピード | ディストーション量 |
| | | | | 8 | Megaphone+Dry | μMod | ディケイ | フィードバック | ディチューン | ディストーション量 |
| Delay (ディレイ) | | | 2B | 9 | Octave Down | μMod | ディケイ | フィードバック | スピード | ジェンダー |
| | | | | 0 | Snappy Room | リバーブ | ディケイ | フィードバック | ディチューン | ハイパス |
| | | | | 1 | Smooth Plate | リバーブ | ディケイ | フィードバック | ディチューン | ジェンダー |
| | Delay (ディレイ) | | 3A | 2 | Broadway Hall | ディレイ | ディケイ | フィードバック | スピード | ディストーション量 |
| | | | | 3 | Subtle Spring | ディレイ | ディケイ | ディレイタイム | スピード | ハイパス |
| | | | | 4 | Music Club | リバーブ | ディケイ | フィードバック | ディチューン | ディストーション量 |
| | | Delay (ディレイ) | 3B | 5 | Wood Chamber | リバーブ | ディケイ | フィードバック | スピード | ハイパス |
| | | | | 6 | Dome Chapel | リバーブ | ディケイ | ディレイタイム | スピード | ディストーション量 |
| | | | | 7 | RealPlate Long | ディレイ | ディケイ | フィードバック | ディチューン | ディストーション量 |
| Delay (ディレイ) | | | 3A | 8 | Cozy Corner | リバーブ | ディケイ | ディレイタイム | ディチューン | ディストーション量 |
| | | | | 9 | Indoor Arena | リバーブ | ディケイ | フィードバック | スピード | ハイパス |
| | | | | 0 | Us & Them Mono | ディレイ | ディケイ | フィードバック | スピード | ジェンダー |
| | Delay (ディレイ) | | 3B | 1 | Narrow Multitap | ディレイ | ディケイ | フィードバック | ディチューン | ハイパス |
| | | | | 2 | Mono Rockabilly | ディレイ | ディケイ | ディレイタイム | スピード | ハイパス |
| | | | | 3 | Stereo LongPong | ディレイ | ディケイ | フィードバック | スピード | ハイパス |
| | | Delay (ディレイ) | 3B | 4 | Early Room | ディレイ | ディケイ | ディレイタイム | スピード | ディストーション量 |
| | | | | 5 | Wider Multitap | ディレイ | ディケイ | フィードバック | ディチューン | ハイパス |
| | | | | 6 | 1/8th No Feedback | ディレイ | ディケイ | ディレイタイム | スピード | ディストーション量 |
| Delay (ディレイ) | | | 3B | 7 | 1/8 Feedback | ディレイ | ディケイ | フィードバック | ディチューン | ディストーション量 |
| | | | | 8 | Mono Triplet | ディレイ | ディケイ | フィードバック | スピード | ハイパス |
| | | | | 9 | Triplet Pong | ディレイ | ディケイ | フィードバック | スピード | ハイパス |

スタイル・リスト

| バンク | プリセット | バリエーション | スタイル名 | Balance | Reverb | Delay | μMod | FX | |
|--------------------------|--------------|---------|-----------------|--------------------|--------|-----------|---------|-----------|-----------|
| μMod | 4A | 0 | Light Flange | μMod | ディケイ | フィードバック | スピード | ディストーション量 | |
| | | 4B | 1 | Med Chorus | μMod | ディケイ | フィードバック | スピード | ハイパス |
| | | | 2 | Tube Flange | μMod | ディケイ | フィードバック | スピード | ジェンダー |
| | | | 3 | Fast Chorus | μMod | ディケイ | フィードバック | スピード | ハイパス |
| | | | 4 | Silk Flange | μMod | ディケイ | フィードバック | スピード | ディストーション量 |
| | | | 5 | Fast Rotor | μMod | ディケイ | フィードバック | スピード | ディストーション量 |
| | | | 6 | Fast Phaser | μMod | ディケイ | ディレイタイム | スピード | ディストーション量 |
| | | | 7 | Tube | μMod | ディケイ | フィードバック | ディチューン | ディストーション量 |
| | | | 8 | Panner | μMod | ディケイ | フィードバック | スピード | ハイパス |
| 9 | Thicken | μMod | ディケイ | フィードバック | ディチューン | ディストーション量 | | | |
| FX | 5A | 0 | HardTuned Space | μMod | ディケイ | フィードバック | スピード | ディストーション量 | |
| | | 5B | 1 | Tuned Megaphone | FX | ディケイ | フィードバック | ディチューン | ディストーション量 |
| | | | 2 | Megaphone | FX | ディケイ | フィードバック | スピード | ディストーション量 |
| | | | 3 | Hard Drive | FX | ディケイ | ディレイタイム | スピード | ディストーション量 |
| | | | 4 | Tune Drive | FX | ディケイ | フィードバック | ディチューン | ディストーション量 |
| | | | 5 | Peak Drive | FX | ディケイ | ディレイタイム | スピード | ディストーション量 |
| | | | 6 | Octave Down | μMod | ディケイ | フィードバック | スピード | ジェンダー |
| | | | 7 | Megaphone Drone | FX | ディケイ | ディレイタイム | ディチューン | ハイパス |
| | | | 8 | Octave Up Distort | リバーブ | ディケイ | フィードバック | スピード | ディストーション量 |
| 9 | Bandpass | FX | ディケイ | フィードバック | スピード | ハイパス | | | |
| Pop / R&B (ポップ / R&B) | 6A | 0 | Kanye Lockdown | ディレイ | ディケイ | フィードバック | ディチューン | ジェンダー | |
| | | 6B | 1 | Distort Mix | μMod | ディケイ | フィードバック | ディチューン | ディストーション量 |
| | | | 2 | Praise You | μMod | ディケイ | フィードバック | スピード | ディストーション量 |
| | | | 3 | Pop Doubling | μMod | ディケイ | フィードバック | スピード | ハイパス |
| | | | 4 | HardTune Megaphone | ディレイ | ディケイ | フィードバック | ディチューン | ハイパス |
| | | | 5 | In The Air | μMod | ディケイ | ディレイタイム | スピード | ハイパス |
| | | | 6 | Let's Dance | ディレイ | ディケイ | フィードバック | ディチューン | ハイパス |
| | | | 7 | Distorted | FX | ディケイ | ディレイタイム | ディチューン | ディストーション量 |
| | | | 8 | Coldplay Violet | ディレイ | ディケイ | ディレイタイム | ディチューン | ハイパス |
| 9 | Elton Bennie | ディレイ | ディケイ | ディレイタイム | ディチューン | ハイパス | | | |

スタイル・リスト

| バンク | プリセット | バリエーション | スタイル名 | Balance | Reverb | Delay | μMod | FX |
|-------------|-------|---------|-----------------|---------|--------|---------|--------|-----------|
| Rock/Metal | 7A | 0 | Bites Dust | μMod | ディケイ | フィードバック | ディチューン | ハイパス |
| (ロック/メタル) | 7B | 1 | Been A LongTime | ディレイ | ディケイ | ディレイタイム | ディチューン | ハイパス |
| | | 2 | Black Dog | ディレイ | ディケイ | フィードバック | スピード | ハイパス |
| | | 3 | Comfy Numb | ディレイ | ディケイ | ディレイタイム | スピード | ハイパス |
| | | 4 | Day Green | μMod | ディケイ | フィードバック | ディチューン | ハイパス |
| | | 5 | Doubling | μMod | ディケイ | フィードバック | ディチューン | ディストーション量 |
| | | 6 | Come Together | ディレイ | ディケイ | ディレイタイム | スピード | ハイパス |
| | | 7 | Vertigo | ディレイ | ディケイ | フィードバック | スピード | ハイパス |
| | | 8 | BlueJayWay | μMod | ディケイ | ディレイタイム | スピード | ハイパス |
| | | 9 | Distort Mix | μMod | ディケイ | フィードバック | ディチューン | ハイパス |
| Oldies | 8A | 0 | Slap LoFi | ディレイ | ディケイ | ディレイタイム | ディチューン | ハイパス |
| (オールディーズ) | 8B | 1 | LoFi Verb | リバーブ | ディケイ | ディレイタイム | スピード | ハイパス |
| | | 2 | LoFi Verb2 | リバーブ | ディケイ | ディレイタイム | スピード | ディストーション量 |
| | | 3 | EchoPlate | ディレイ | ディケイ | フィードバック | ディチューン | ハイパス |
| | | 4 | Rock On | ディレイ | ディケイ | ディレイタイム | ディチューン | ハイパス |
| | | 5 | Depeche Plate | ディレイ | ディケイ | ディレイタイム | ディチューン | ハイパス |
| | | 6 | Heartbake Hotel | ディレイ | ディケイ | ディレイタイム | ディチューン | ハイパス |
| | | 7 | Ring of Fire | ディレイ | ディケイ | ディレイタイム | ディチューン | ハイパス |
| | | 8 | Bennett Chicago | ディレイ | ディケイ | ディレイタイム | ディチューン | ハイパス |
| | | 9 | Clipped Motown | リバーブ | ディケイ | ディレイタイム | ディチューン | ディストーション量 |
| Jazz/Ballad | 9A | 0 | Jazz Plate | リバーブ | ディケイ | ディレイタイム | ディチューン | ハイパス |
| (ジャズ/バラード) | 9B | 1 | Roomish | リバーブ | ディケイ | ディレイタイム | ディチューン | ハイパス |
| | | 2 | PreDelayVerb | ディレイ | ディケイ | フィードバック | ディチューン | ハイパス |
| | | 3 | Locut fx send | ディレイ | ディケイ | フィードバック | ディチューン | ハイパス |
| | | 4 | Hicut 1/2 Note | ディレイ | ディケイ | フィードバック | スピード | ハイパス |
| | | 5 | Thicken Lowcut | μMod | ディケイ | フィードバック | ディチューン | ハイパス |
| | | 6 | Phone Echo | ディレイ | ディケイ | フィードバック | スピード | ハイパス |
| | | 7 | Short Ambience | ディレイ | ディケイ | ディレイタイム | スピード | ハイパス |
| | | 8 | Ducked LongEcho | ディレイ | ディケイ | フィードバック | スピード | ハイパス |
| | | 9 | SpringPreDelay | ディレイ | ディケイ | ディレイタイム | スピード | ハイパス |

Tweak ノブ割り当て

スタイル・リスト

| バンク | プリセット | バリエーション | スタイル名 |
|------------|-------|---------|---------------------|
| Electronic | 10A | 0 | Double and Mayo |
| (エレクトロニック) | 10B | 1 | Skinny 1/4 Note Tap |
| | | 2 | Tap Ping Pong |
| | | 3 | DistortFlg Delay |
| | | 4 | Long Duck Delay |
| | | 5 | Long&Short Duck |
| | | 6 | HardTune Tap Delay |
| | | 7 | Octave Panner |
| | | 8 | Cylon Drone |
| | | 9 | Days Go By |

Tweak ノブ割り当て

| Balance | Reverb | Delay | μMod | FX |
|---------|--------|---------|--------|-----------|
| μMod | ディケイ | フィードバック | スピード | ハイパス |
| ディレイ | ディケイ | フィードバック | ディチューン | ディストーション量 |
| ディレイ | ディケイ | フィードバック | スピード | ハイパス |
| μMod | ディケイ | フィードバック | スピード | ハイパス |
| μMod | ディケイ | フィードバック | ディチューン | ジェンダー |
| ディレイ | ディケイ | フィードバック | スピード | ディストーション量 |
| ディレイ | ディケイ | フィードバック | ディチューン | ジェンダー |
| μMod | ディケイ | フィードバック | スピード | ディストーション量 |
| μMod | ディケイ | フィードバック | ディチューン | ディストーション量 |
| μMod | ディケイ | フィードバック | ディチューン | ディストーション量 |